

令和6年度岩手県薬事審議会 会議録

1 日時

令和6年7月29日(月) 午前10時から午前11時まで

2 場所

岩手県公会堂 2階 26号室

3 出席者

(1) 委員

畑澤 博巳 委員、 鶴田 剛 委員、 内藤 隆 委員、 尾形 由紀 委員、
磯田 朋子 委員、 幅野 渉 委員、 本間 博 委員、 和田 武彦 委員、
相馬 一二三 委員、 滝村 敦子 委員

(欠席委員：高橋 裕介 委員、 梶田 佐知子 委員)

(2) 事務局

企画理事兼保健福祉部長 野原 勝、 参事兼健康国保課総括課長 日向 秀樹、
薬務課長 千田 浩晋、 主任主査 築田 尚美、 主任 小田 哲也、
技師 鈴木 ゆめ、 技師 藤原 優八

4 会議の内容

(1) 開会

(2) あいさつ (野原企画理事兼保健福祉部長)

(3) 議事

ア 岩手県の薬事行政の概要について (資料1)

[質疑・意見等]

○ (幅野委員)

3ページを見ると令和元年度から令和5年度までの5年間の薬局・医薬品販売業等の施設数の推移が出ている。昨年度の審議会で、令和4年度から各施設数が増加しているのは、盛岡市のデータが加わったためとの説明があった。令和4年度から令和5年度については、施設数は全体的に大きく変わっていないということによろしいか。

○ (事務局)

医療機器の販売の届出等が若干増加したことが全体の増加要因になってはいるかと思うが、特に大幅な変化は見られないと考えている。

医療機器の販売については、種類によっては届出制であり、コンビニなどでも販売できるようになるため、やや増加の傾向にあるのかと考えている。

○ (幅野委員)

今の話は、販売できるものが増えている、業態が広がっているというイメージか。

○ (事務局)

医療機器については、絆創膏に似た形態の創傷被覆材や日用雑貨的なものでも該当することがあり、それらを販売する際には、届出が必要になる。保健所の指導により、届出等が若干増加しているのではないかという状況である。

○ (内藤委員)

今、国でOTCの販売に関して審議会での議論が進んでいると思うが、岩手県においてオーバードーズに関する問題や保健所等による指導はあるのか。資料によると問題ないようであるが、今後の考え方等があればお知らせいただきたい。

○ (事務局)

オーバードーズの問題は、国でも問題視している。

保健所において立入検査等の際に、例えば大量購入や頻繁な購入などの状況がないかどうかを確認したうえで、医薬品を販売するよう指導している。今のところ、幸いにも県内で深刻な状況になってはいないが、いつそうなるのか分からないので、医薬品の販売業者に情報提供を行い指導していきたい。

○ (幅野委員)

資料を見ていて感じたことだが、薬物の乱用については記載があるが、オーバードーズに関するデータはどこかで集計しているのか。

○ (事務局)

県独自ではオーバードーズに関するデータを集めていないが、国は関係機関の情報提供を受け、ある程度概数的なところは把握しているのではないかと思う。ただ、このオーバードーズについては、なかなか実態をつかめない部分もあり、正確な数値というのはまだできていないのではないか。社会問題化していることから、今後、国で情報収集を行っていくのではないか。

○ (畑澤委員)

今年から薬剤師会としても、学校薬剤師における薬物乱用防止講座の中でオーバードーズの問題を含めて話をするようにしたいと思っている。都会の問題ではなく、岩手にもそのような波がくるだろうと思うので、小さいときからお話をしていきたい。小学生にオーバードーズの話をするのは寝ている子を起こすようなものではないか、というような御意見もあるようだが、薬物乱用防止講座を始めたときにも同様の話があった。大事な話なので是非これからも啓蒙に努めたい。

○ (幅野委員)

大学でも薬学生に対してオーバードーズに関する授業を行っており、薬剤師を通じての普及を目指している。

薬務行政については概ね順調に進んでいるということを確認できたので、引き続きよろしく願います。

イ 地域連携薬局及び専門医療機関連携薬局の認定状況について (資料2)

[質疑・意見等]

○ (幅野委員)

令和3年度から比べて認定薬局数が増えており、順調にきているという印象を受けた。

1年ごとに更新されるということだが、認定施設数が減少したということは無いようなので、順調に機能している印象だがどうか。

○ (事務局)

薬局がかなり積極的に認定の申請をしているという印象がある。要件が厳しいため、認定数が増加するのか危惧していたが、薬剤師会の働きかけもあり、各薬局が積極的に申請している。

今後はこの傾向が続くように、県としても、支援・助言を行いたいと考えている。

○ (和田委員)

認定にならなかった事例は無いということでそこは良いことだと思うが、薬局はそれほど広くは無いので、構造設備の基準が厳しいと認定が難しくなるのではないかと以前から考えていた。構造設備の規準に関してはどのようにお考えなのか伺う。

○ (事務局)

構造設備のプライバシーに配慮したものについては、最低限の構造の場合であっても運用でプライバシーに配慮した対応ができると確認できれば認定している。

ウ その他(薬剤師確保について) (資料3~5)

[質疑・意見等]

○ (畑澤委員)

この件については、いろいろところで要望しており、第8次医療計画の中によろやく薬剤師確保計画を入れていただいた。

早速、薬剤師確保対策検討会も作っていただき、これからのスキーム、スケジュールをお示しいただいた。

薬剤師の減少は、薬剤師会だけではどうにもならない問題であり、全体的に考えていかなければならない問題だと思っているので引き続きよろしくお願ひしたい。

○ (相馬委員)

岩手医科大学薬学部には県内の高校の指定校推薦はあるのか。

○ (幅野委員)

指定校推薦は、従来から行っている。

○ (相馬委員)

定員は充足しているのか。

○ (幅野委員)

薬剤師確保ということで、入口のところの責任を背負っているところだが、御存知のとおり入学者数が減少していることも薬剤師不足の大きな原因になっているかと思う。

推薦も含め、地元の方に安心して来ていただける薬学部、そして卒業後も医療従事者として地元で貢献してくれる薬剤師というものを押し進めているところなので御協力いただければと思う。

○ (相馬委員)

看護師でも同じ傾向がある。看護学校が定員割れを起こしている状況である。

看護の日というイベントがあるが、医師、歯科医師、薬剤師、看護師がコラボしてイベントを行ってもいいのかと思った。生産年齢人口、若者の人口が減少してきており、同じような事例がどちらの業域でもあると思うので、連携し力を併せて行う共通のイベントがあってもいいのかと思っている。

○ (幅野委員)

まさしくそのとおりで、薬学、薬剤師会は薬のイベントを行うが、連携はできていないのではないかとこのところなので、医師会、歯科医師会の皆様方も是非御協力いただければと思う。

薬剤師確保についても、県で具体的に検討会を開催し進めるとのことなので進捗に期待したい。

(4) その他

○ (畑澤委員)

皆様方に御報告とお願いをしたい。

連携薬局、地域包括ケアの話題で、今、薬局でも在宅が大きな問題となっている。

昨年開催された、厚生労働省が主催する薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会の中で議論されているが、在宅をお願いしたい場合どここの薬局が対応しているのか、夜間に相談したい場合どここの薬局が夜間対応をしているのかが分かるように、国民、県民に公表するように厚生労働省から言われており、6月の調剤報酬改定の中でも公表が求められている。

今年、5月22日に夜間休日、在宅及びオンライン服薬指導に対応している薬局、感染症の医療措置協定を締結している薬局、コロナの検査キット取扱薬局、緊急避妊薬の対応ができる薬局、このような細かな情報を公表した。

この情報は、薬剤師会のホームページだけで公表していても、なかなか県民に伝わらない。

また、医療機関の先生やケアマネージャーの方なども見られる環境があるといいと思っている。G-MISもあるが、もっと詳しい内容でこういうものに特化した情報が公表されているので、是非県のホームページ、県民が見るホームページにバナーを貼っていただきたい。

先ほど三師会の先生にもお願いして、医師会、歯科医師会、看護協会の一般的なホームページにもバナーを張っていただくようお願いした。

これから地域で連携していく中で、患者が薬局を選べる環境を作ることが大事だと思うので、よろしく願います。

○ (事務局)

非常に重要な御意見をいただいたと思っている。県としても、薬剤師会の取組を支援したい。また、県のホームページへのリンクも進めて行きたい。是非、医師会、歯科医師会、看護協会も協力して進めていただきたい。

○ (磯田委員)

今のお話に関連して、そこに消費者も加えていただきたい。もし一覧を作った場合、チラシなどがあれば、メールでも構わないが団体宛てに送っていただければ、団体からお知らせできるので御活用いただきたい。